

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-35

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 下妻市立下妻中学校 入山克巳 (現筑西市立長瀧小学校) 平成 30 年度中央研修第 3 回副校長・教頭等研修
活動名: リスクマネジメント研修 ～判例を通して対応を学ぼう～	
解決すべき課題: ・今の学校現場にはリスクがあふれている。保護者との対応が間違えば訴訟にまで発展しかねない。そのような中で、管理職として教職員を守り学校を守っていくためには、リスクを想定し最善な対応力が必要になってくる。自らマネジメントできる職員集団をつくっていくしかない。事例を通して研修で学んだことを今後の学校経営に活かすことが最大のリスクマネジメントであると考えます。	
目標・方針: ・教員一人一人が自分のペースで学べるように PP シートを作成した。学校の危機管理を「熱中症」「安全マニュアル」「個人情報」の 3 つに絞り、自分事として捉えることができるようにした。この PP シートから、教員一人一人が高い危機管理意識と自信を持って教育活動に専念してほしい。	
活動内容: ・校内コンプライアンス研修の時間を使って、リスクマネジメントを全員で研修した。各自の PC で PP シートを見ながら研修を進めた。それぞれの判例を見ながら、教員が問われる 3 つの責任について感じたこと等を話し合った。一人一人が自分事として真剣に事例と向き合い、本校での十分に起こり得る問題として感想等を述べ合った。その後、本校のリスクを洗い出し共有化を図った。それぞれの自分のクラスの問題に対して、リスクマネジメントの視点で他の教員から助言をもらい、明日からの自分の指導に自信を持って当たっていきたいとの感想が多かった。	
活動の成果: ・小学校では「授業中」が最も訴訟リスクが高いことを知り、授業中における児童の把握に専念するようになってきた。「指導と管理は表裏一体である」という考えのもと、授業をしながら子どもたち一人一人をしっかりと見ていくという視点を大切にしたい取組がなされるようになった。また、教員は学校教育法や地方公務員法、教育公務員特例法等のさまざまな法規の中で職務を遂行しているという自覚と責任感が高まったという感想が多く見られた。さらに、教員は法を熟知し責任のある教育活動を展開することでしか「信頼」は得られないということを変更して感じることができた。	
アピールポイント (アイデアや工夫): ・PP による研修 ・全体研修でも個人研修でも対応可 ・実際の裁判例によるリアルな学び ・当事者意識の高揚	

PPシート (21枚)

1 学校の危機を救う！
～リスクマネジメントができる学校を目指して～
京西市立長瀧小学校

2 小学校では「授業中」の場面による訴訟が多い
とすれば訴訟リスクは高くなるのか？
※どの教員も高リスク状態を長く持つ
※適切な対応を待つ (ガイドラインによるリスク管理)

3 問われる 3 つの責任
① 刑事責任 (刑罰) 教員個人責任
② 行政責任 (懲戒処分) 教員個人責任
③ 民事責任 (損害賠償) 校長・教員個人責任
※教員個人の責任及び役割
※刑事責任は「罪」を問われ、行政責任は「罰」を問われ、民事責任は「金」を問われる。

4 依頼者と法
依頼者とは
依頼者とは、学校の危機管理を依頼する者であり、学校の危機管理を依頼する者である。依頼者は、学校の危機管理を依頼する者であり、学校の危機管理を依頼する者である。

5 坂田 昇先生 (日本女子大学教授) の講義より
【テーマ】
裁判例の動向を分析し、学校経営、教育実践に存在する「落とし穴」を発見し、法によって奥打ちされた学校経営 (スクールコンプライアンス) について検討する。

6 【ポイント】
1 事例 (= 失敗) から学ぶ
2 想像力を磨く
自分の学校に置きかえて考えられるか！
◎ 注意を喚起する × 根拠外は適用しない

7 学校事故の危機管理
熱中症

8 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

9 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

10 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

11 文部科学省 (平成 30 年 10 月 18 日、第 10 号) 通知
熱中症事故の防止について (依頼)

12 文部科学省 (平成 30 年 10 月 18 日、第 10 号) 通知
熱中症事故の防止について (依頼)

13 文部科学省 (平成 30 年 10 月 18 日、第 10 号) 通知
熱中症事故の防止について (依頼)

14 学校事故の危機管理
安全マニュアル

15 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

16 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

17 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

18 学校事故の危機管理
個人情報

19 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

20 事例 1 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 2 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待
事例 3 認知症高齢者 虐待 虐待 虐待 虐待

21 正とめ
学校事故は法的視点と倫理的視点がある
が、その両方とも必要である
◆ 教員の視点… 切迫した状況での判断
第一歩を踏み出したという思い
◆ 保護者の視点… 結果を重視
子どもが傷ついた、命を落とされたという事実と向き
◆ 裁判所の視点… 事後的、事後的
後付けの「たら」「れば」論
法的根拠、ガイドライン重視